

「With コロナ時代における未来アイデア」応募用紙

○応募者

氏名・法人名・団体名	Studio Tada
(法人・団体の場合)	代表者名：多田涼
メールアドレス	
電話番号	

募集対象・応募資格適合への同意	<input checked="" type="checkbox"/> 同意します
暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）に規定する暴力団をいう。）	<input checked="" type="checkbox"/> 該当しません

○応募内容

アイデアの部門を下記から1つ選んで丸（○）を記入してください。	
<input type="checkbox"/> 未来デザイン部門	<input checked="" type="checkbox"/> 未来テクノロジー部門

アイデア名	FULU ー拡張現実用触覚ウェアブルデバイス
-------	------------------------

提案の概要（200字以内）
遠く離れた場所でも、触覚によるコミュニケーションを可能とするウェアブルデバイス。拡張現実（XR/AR/VR）に使うことができ、コミュニケーション・教育・精神医療・ゲームなど幅広い分野で応用可能。デジタル体験に、視覚と聴覚だけでなく、触覚も加えることで、よりヒューマンな体験を作り出すことを目指す。また触覚のデータを収集することにより、新しい触覚テクノロジーの加速にも貢献する。（181字）

提案に当たっての現状・課題・背景 ※様式自由
COVID-19のパンデミックによって、世界中の多くのひとがソーシャルディスタンスをしなければならなくなっていました。遠くに住むおじいちゃんおばあちゃん、海外に留学中の子供、海外赴任中のパートナー。世界中の人たちが自分の愛する人に直接触れることができなくなっていました。デジタル触覚コミュニケーションによって、この問題を解決したいと考えております。 実は触覚は、多彩な感情のコミュニケーション、ストレス軽減、信頼の形成、と実は人間にとって重要な感覚器官です。しかし、現在のデジタルコミュニケーションは視覚と聴覚がメインで、触覚をとりいれているものはほとんどありません。一方、触覚研究は研究室レベルではかなり進んでおり、触り心地だけでなく、温熱環境や重さまでも再現可能となっております。しかしこれらの専門的な機械は、大きく、効果で、一般の人たちが気軽に使えるようなものではありません。そこで一般の人が気軽にデジタル体験に触覚を使えるようにするデバイスを開発しました。 XR技術の一般への浸透により、よりデジタル体験が自然な形で人々の日常に入り込むようになって

きました。そこで触覚デバイスも、フィジカルな現実触覚と、デジタル触覚が同時に体験できるような、爪形としています。学習困難者のマルチセンサリーラーニング、学校で寂しがらる子供、図鑑に触覚を付与、楽器の学習に触覚を使う、など教育面でも触覚が必要とされる場面は多くあります。

ポストコロナの時代のデジタル体験が、よりヒューマンとなるための製品と考えます。

提案を実施することによる効果、提案の実現可能性や実現に当たっての課題 ※様式自由

効果>

- 触覚による新しいコミュニケーションの創造（恋人・家族・子供・お年寄り）
- 触覚の持つストレス軽減、信頼の形成による、精神医療や学習困難支援
- XR 技術による新しいデジタル体験（展示・オンラインショッピング・ゲーム）
- 触覚データ収集による新しいテクノロジーの加速（AI やロボット技術の向上）

課題>

- プログラムやアプリを大量生産できるようにするために大幅に改善する必要がある。
- 資金（雇用・システムの改善・製品の製造・サーバーなどの固定費）
- プロトタイピング：世界的な製造の聖地である深センが COVID-19 によって訪問不可能なため、日本国内でイノベーションを起こせるような工場を探したり、システムを構築したりする必要がある。

提案の詳細 ※様式自由

- ウェブページ <https://www.fulu.site/> を参照ください（英語）
- プロモーションビデオ <https://youtu.be/xKvPcPK4pPw>（英語）
- デモビデオ <https://youtu.be/iFJG1j1golM>

※「提案の概要」以下の項目は、適宜記入欄を拡張して構いません。

※様式自由となっている項目は、別ファイル（ワード又はPDF形式）で提出していただいても構いません。ただし、本応募用紙と合わせて最大20MBまでです。